

## 「今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回）」記録要旨【両磐ブロック】

平成27年6月17日（水）

一関地区合同庁舎 3階大会議室

### 【勝部 一関市長】

- ・地方創生に向けて、各自治体ならではの、総合戦略を創っていこうと様々苦勞している。一関市の場合は、「まち・ひと・しごと」という戦略を立て、特に若者が将来この地域に定着してもらいたいと思っている。
- ・一関市は宮城県との県境であり、より広域的に物事を進めていかなければならない。通勤エリア、通学エリア等、文化圏が一緒になって取り組んでいくことが本当の意味での地方創生に結びつくのだろう。
- ・地域の力で人材を育てていくというのが本当の意味での地域力を発揮できる場である。それがキャリア教育にもつながり、それをしっかりやっていくことによって若者が地元で定着し、地域の人口を維持し、地方創生につながっていく。
- ・望ましい学校規模について、地域にはそれぞれ特色があり、それをこれから引き出していこうとしているので、望ましいとしている理由が、学校管理上、学校運営上なのかももう少し踏み込んで考えてほしい。
- ・現実を地域住民に対して理解していただくために県教委には努力してほしいし、地域住民もただ単に情緒的に反対するのではなく、現実をしっかり受け止めなければいけない。
- ・地域の命運を握っている生産年齢の若者をどう地域に定着させていくかということが、地域にとって大きな問題なので、そういう地域の置かれている状況というのも再編計画では配慮して欲しい。

### 【齋藤 平泉町副町長】

- ・事前に配布された資料を見てそのとおりで感じ、実態もよくわかった。方向性としても特に問題はないと感じている。
- ・平泉町には高校がないので、高校誘致はできないものか。地域に高校があると、登下校に高校生が街を歩くようになり町としても賑やかになる。運動や芸術分野の様々な大会に出場すれば町ぐるみの取り組みになり、町がひとつになる要素になると考えている。
- ・逆に地域に高校がなくなることは大変なことだと思う。学校はその地域のシンボルでもあるので、その学校の特色を生かし、できるだけ存続させてほしい。

### 【金野 ジョブカフェ一関センター長】

- ・これからの10年間で産業社会は大きく変化していくと思うので、その変化に対応した高校再編をしないといけないと、全国や世界から置いてきぼりとなる心配がある。
- ・今までのように普通科からの大学等への進学だけを考えるのではなく、専門学科からの実業的、実務的な方面での大学進学等についても考えていかなければならない。
- ・I L C設置のことも考慮に入れた国際化への対応も考えた高校再編をしなければ人材の供給ができないと思う。進学に向けた国際化だけではなく、たとえば工場で働く人であっても語学が必要になるため、大きな視野での国際化を考えて欲しい。
- ・専門高校では従来の機械科、電気科、電子科等ではなく、社会の要望に応えられるような大胆な学科の再編、見直しが必要なのではないか。

(次頁に続く)

- ・キャリア教育は地域の企業だけでなく、地域の住民とのつながりを持った形でもう少し進展していけばいいと思っている。
- ・キャリア教育は専門高校では行われているが進学校においては非常に不足している。大学卒業後のことも考えた大学選びのためのキャリア教育について力を入れた方がよい。
- ・世界レベルに対応するため、進学クラスでの少人数制による少数精鋭の学力向上も必要ではないか。

**【千葉 平泉商工会会長】**

- ・大卒でも高卒でも、即戦力になる人材を求めているのが現状である。
- ・高校に入学する生徒が何を指すのかが明確になるような特色ある高校の編制をすべきだと思う。
- ・社会の流れを受け止めるために中学校教育、高校教育の一貫した教育改革が今後、求められるのではないか。
- ・平泉の歴史文化を理解しながら人間性を育てることに平泉町の小中学校で取り組んでいるが、高校がないため、その後の継続した教育が出来ずに悔しさを感じている。
- ・大震災後は高校を卒業して地元就職したいという子ども達が増え、できるだけたくさんの人材を岩手県に定着させようと商工会で盛んに取り組んでいる。

**【佐藤 一関市PTA連合会副会長】**

- ・花泉高校は地元の子どものことを考えながら良い環境で教育をしている。先生が目が届くような少人数制も取り入れた方がよいのではないか。
- ・不登校や学力不足の生徒への対応も考え、先生が生徒と向き合っただけで教育できる環境の高校も高校再編では考えてほしい。

**【菅原 平泉町立平泉中学校PTA会長】**

- ・ILC誘致を目指しているため、国際化に対応できる特色ある学科を新設して、子ども達のニーズや社会に対応した人材育成に対応してほしい。
- ・地域を愛するような学校教育等を小中学校では実践しているので、高校でも地域への人材の定着を目指した教育に取り組んでほしい。

**【小菅 一関市教育委員会教育長】**

- ・一関市も小中学校の統合を行っているが、住民の理解合意のうえでやっている。以前は、統合は全て反対という雰囲気だったが、最近は住民もしっかり考えているので高校再編でも住民の理解を求めて行ってほしい。
- ・1学年10~20人というあまりに少なくなれば、住民も現実的にこのままでよいのかと考える。
- ・県内には3学級以下の小規模校が多数存在しており、もっと評価してもいいのではないか。花泉高校の27年3月の卒業生は進学でも実績をあげている。就職は80%近くの地元定着率であり、毎週のキャリアカウンセリングがこの実績に結びついているのではないか。地域に結びついている活動に積極的に参加する等の自助努力を評価するべきでないか。
- ・小規模校は地域密着型であり、将来地域に定着できる、あるいは離れても将来地域を応援できる人材育成に有利であり、これは人口減少社会の中では非常に大きな評価要素である。
- ・一関、平泉など地域を語れるグローバルな人材の育成を目指していかなければならないのではないか。
- ・地域ということをもっと意識するような教育を小中学校でやっていきたいと考えているので、高校でも地域のことを考える機会を増やしてほしい。

(次頁に続く)

### 【岩淵 平泉町教育委員会教育長】

- ・教育の機会の保障の観点から沿岸や中山間地等は35人学級等、弾力的な運用をして、国の財政補助が無くなるのであれば県独自の政策として措置していくというようなことも考えていかなければならないのではないか。
- ・将来、町や岩手を担う人材を育成するためには選択幅の広い進学保障というのが大事である。普通科、専門学科、総合学科それぞれ特色を生かしながら、子ども達の実験幅を狭めることのないようにしてほしい。
- ・奈良県立法隆寺国際高校では歴史文化科、国際英語科、国際教養科等、ユニークな科を設置している。平泉の歴史や文化を学び、地域を紹介し、発信できる人材を育成するような特色ある学科が県南の高校にあってもよいのではないか。
- ・肝心の子ども達はどのように考えているのだろうか。子ども達が集まって高校や進学について話す機会をつくれれば新たな視点も見えてくるのではないかと。

### 【三浦 一関地方中学校長会会長】

- ・子どもの数が減る中、地域を支える若者を育てる高校として両磐ブロックとしてどういう高校、どういう学科が必要なのかということ具体的に考えて行かなければいけない。
- ・地域に残りたいという子ども達は最近増えているが就職先としての受け皿がない。どのような自治体を目指しているのかを見据えた学校、学科の配置が必要ではないか。
- ・一関はブロックの中に農業、工業、商業があり選択の幅が広いが、実際には通学の時間、方法、金銭的な負担が大きいので保護者の負担を軽減するような方法を検討してほしい。
- ・平泉町には高校はないが、平泉中学校の生徒は一関市と胆江の両方が学区内で選択の幅があるというのは非常にありがたい。

### 【 県教委 】

- ・望ましい学校規模として、生徒の進路目標の実現、多様な経験を積むことができる4～6学級程度を基本としているが、指摘の通り3学級以下の小規模校が増加していること、そして特長ある実践活動をしていることも踏まえて学校規模に幅を持たせるという意味を含め「原則」という言葉を加えている。
- ・4～6学級を望ましい規模としている理由は、高校時代は社会人として羽ばたこうとする前段階で、より多くの友人、教師とのふれあい、お互いが切磋琢磨することによって学力向上を図るとともに、社会性や協調性を育てていくという時期であり、ある一定の規模が必要と考えているためである。具体的に学習環境の面では、4学級以上の学校においては科目ごとの専門教員の配置がほぼ可能であり、能力や個性を伸ばす教育課程の選択が可能になる。また、専門性の高い教育指導を受けることができることとともに進路目標、センター試験の対応というような部分も考えると少なくとも4学級以上は必要である。部活動でも概ね主な運動部の団体競技を男女別に開設することが可能になり、専門性の高い顧問の配置により指導を受ける機会が増える。
- ・一方、小規模校では、一人ひとりに対応したきめ細やかな指導ができる、地域との連携において進路や部活動で一定の成績、実績を挙げている等のメリットがある。一方、課題としては、教員の配置人数に限られ、進学から就職までの進路希望への対応が難しいこと、地歴公民、理科分野の専門教員の配置が難しいことがあげられる。また、団体競技の部活動の選択肢が少なく、中学校で開設していた部活がない等の課題がある。このような課題を如何にして少なくしていくか、お互いに知恵を出し合っていきたいと考えているところ。

(次頁に続く)

- ・定員に関しては、高校標準法による定員 40 人より少なくすることは出来ないのか、という質問があったが、本県では少人数指導や習熟度別学習を行い、実際に 40 人以下の少人数で授業を行っている。しかし、財政的な課題として教員の給与費は小中学校では在籍数で決まるが、高校は募集する定員を基礎として計算される。標準法では 1 学級 40 人の高校では 10 人の教員配置となるが、35 人学級とすると 9 人分しか国から措置されない。そのため現在のきめ細やかな指導体制をどのように確保していくのが課題となる。県で追加負担を考えてほしいとの意見もあったが、他県での少人数学級を導入した場合の財政負担や教員配置の状況（教諭か講師か）とか、そのようなことを含めて考えていかなければならない。本県全体の学校の定員を 40 人以下にするのは現状では難しい。国への要望は引き続き行っていく。
- ・ I L C 誘致が確定した場合には国際関係の学科について、もっと詳しく考えていかなければならない。現状で、国際関係の学科においては専門性を生かした進路先が少なく進路選択が難しいという課題もある。どういうところまで学んだらよいか、中学生の志望動向も十分捉えた上で考えていく必要がある。
- ・通学の関係では統合により通学が困難になる場合、具体的には公共交通機関がなく、保護者や市町村がバス運行をする場合に県が補助している。統合を行わない場合の通学費の支援については義務教育ではないので、公平性の観点から県全体を対象とした仕組みは難しいが、経済的な事情等への対応については奨学金など考えていかなければならない。

**【小菅 一関市教育委員会教育長】**

- ・35 人の学級にした場合、学級数が増え、結果として 40 人の定員と同じ数の教員配置になるのではないか。
- ・概ね 10 年後を見据えた具体の計画を策定するということであるが、実際にはいつを予定しているのか。
- ・7～8 月の地域検討会議では地域との連携をテーマにということであるが、10～11 月の会議ではどのようなテーマで行うか見通しについて教えてほしい。

**【 県教委 】**

- ・県全体として生徒の数が減っているため、40 人定員を 35 人定員した場合でも学級数は増えない。教員配置数も減る場合があり、慎重に考えていかなければならない。
- ・今後のスケジュールと今後の地域検討会議の進め方については、再編計画を具体化していくための高校、学科のあり方について一回では結論が出ないと思っているので、今回のご意見を次回以降は掘り下げていきたいし、次回の 7～8 月は更に地域との連携という部分で、お互い知恵を出しあうということで意見をいただきたいと考えているところ。
- ・子ども達の高校等への進学、学科への意識も把握した上で再編計画を進めたいので、三者面談のある 7 月末位を目処に中学生アンケートを実施し、10～11 月の会議ではアンケート結果を提示しながら、学科について検討していきたいと考えている。
- ・計画策定の時期は、未定であるが現在行っている地域検討会議や、意見交換会での意見を踏まえながら決定していきたい。

**【 県教委 】**

- ・5 学級規模の学校の定員を 40 人から 35 人減らすと配置される教員は 6 人減ることになる。小中学校の教員配置に対する考え方とは違うことを理解いただきたい。

(次頁に続く)

### 【三浦 一関地方中学校長会長】

- ・普通科、専門科が選択できるように各学校を配置すると基本的方向にあるが、実際には通学が困難になることが予想され、学区のことについても考えていかなければならないのではないか。
- ・通学が困難になる場合、地元市町村と連携し通学手段の確保に向けた検討を行いますとあるが、この場合、市町村にこういう要望がありますと具体的に提案されるのか。例えば、私立高校では今年度から遠方からの通学生徒向けのスクールバスを配備した学校があり、葛巻町では町として葛巻高校のためにスクールバスを出している。そのようなことを県から市町村に検討してほしいと要請するのか。

### 【 県教委 】

- ・ここで通学支援とは再編統合を行う場合に、再編統合を行った学校に通う生徒が、他に公共交通機関がなく通学が困難になる場合に、市町村と連携して通学手段の確保に向けた検討を行うということなので、今ある高校に対して通学の支援を行うという意味での記載ではないことを理解いただきたい。
- ・学区に関しては、特定の高校への過度な集中を避けること、また遠距離通学による負担の軽減を考慮して普通科において導入している。学区の見直しについては、再編計画の検討とは分けて考えている。学校選択の機会を拡大するために学区の撤廃を望む意見や、反対に過度な受験競争の抑制や地区外への生徒の流出を懸念し、学区の維持を望む意見もある。来年度は入試制度の一部変更もあるのでその動向も踏まえ、高校再編とは別な形での検討が必要と考えている。

### 【勝部 一関市長】

- ・再編計画で、統合する場合は通学に対する支援をしますと初めに示すと、生徒数だけを考慮して統合すると受け取られかねないので慎重に進めた方がよいのではないか。忌憚のない地域からの意見を聞きながら検討していくのであれば、できるだけ誤解を与えないようにした方がよいと思う。
- ・他県との隣接地域で、文化圏や通勤通学エリアが同じ地域や、中山間地域の今でも通学に苦労している生徒がいる地域では、それぞれの地域性を考慮に入れながら再編計画を進める必要がある。
- ・沿線以外の地域や、山間地域での高校の存在は、地域文化の継承に直接関わる部分なので慎重に検討してほしい。

### 【 県教委 】

- ・通学支援について誤解を招くということであるが、基本的方向を改訂する際の検討委員会での議論で、もし再編する場合には通学困難になる生徒のことを十分に考えた上で進めてほしいという意見を踏まえ、再編統合を行う場合でかつ、通学が困難となる場合という記載になっていることをご理解いただきたい。
- ・葛巻町などの支援については町立に近い意識を持ち、それぞれの主体的な取り組みをいただいているものである。県が市町村に対して強制的に財政的支援を求めていくという趣旨ではない。しかし、連携を図りながら、お互いに知恵を出し合いながら高校教育、義務教育という垣根を越えて考えていかなければならないと思っている。

### 【金野 ジョブカフェ一関センター長】

- ・専門高校の工業系では機械科、電気科、電子科という分け方が一般的であるが、人工知能やインターネットを含んだ情報処理の分野の存在が大きくなってきており、部品を作る段階から必要な知識でもあるので人工知能やインターネットに特化した情報処理に関する学科が必要ではないか。

(次頁に続く)

- ・戦後の職業の流れの中で、農業、工業、商業、水産で分けていたが、今後はこの枠組み自体の再検討が必要ではないか。
- ・国際バカロレア（海外の大学に進学できる資格）を取れる学校が全国で現在、25校であるが、2018年までに200校にしようとしている。岩手はILC誘致の件もあるのでこの資格をとれることを特長とした国際化やグローバル化に対応した学校を検討してはどうか。

**【 県教委 】**

- ・産業技術の進歩と学ぶ内容との兼ね合いというのは難しい問題があつて、学習指導要領で学ぶ内容が決まっており、世の中の変化に対応するために文科省で次の学習指導要領の検討に入っており、そこで反映されるものと思っている。高校再編に関してもどのような学科が必要なのか今後も意見を伺いたい。

**【勝部 一関市長】**

- ・県立高校の再編計画が具体化していくと、私立高校が受ける影響は大変大きなものがある。私立高校への対応が今後必要だと思うが、今の時点で何か考えているのか。
- ・国際バカロレアとあわせてインターナショナルスクールについてはどのようになっているのか。

**【 県教委 】**

- ・現在検討中の高校再編計画は県立高校を対象にしているが、私立高校等とは定期的に情報交換や意見交換を行っており、今後も意見交換をしながら対応していきたい。

**【 県教委 】**

- ・インターナショナルスクールについては、教育委員会ではなく他部局（政策地域部）の担当であり、様々な課題もあることから具体的な検討には至っていないと聞いている。
- ・国際バカロレアについては、学習指導要領の範囲の中で国際バカロレアの単位認定できる範囲を拡大し、日本語での授業も可能になる等、ハードルは下がってきている。しかし、認定には一定の研修が必要であり、日本の大学のほとんどが認定していない等の課題があり、今後の状況もみながら検討していきたい。

**【小菅 一関市教育委員会教育長】**

- ・昨年度、花泉中学校から宮城県へ23名、宮城県から花泉高校へは4名入学している。宮城県から岩手県の入試へは適応しにくいと聞いたが、条件を同一にして交流することが原則であると思う。細かい実態については是非研究していただきたい。

**【 県教委 】**

- ・入試制度について岩手県は宮城、秋田、青森と協定を結んでいる。生徒受け入れ条件を拡大すると、逆に生徒流出のリスクが増える可能性もある。入試制度では、岩手は推薦、一般、再募集で行っているが、宮城県は1期、2期で実施しているところ等、各県でそれぞれ制度的違いがあり、4県で揃えるのは難しい状況であることを理解いただきたい。